

平成 28 年 3 月 31 日  
株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント

## 日本の冬の食卓シーンには「鍋気分総量」あり

～気温だけでは説明できない、鍋登場の謎解明～

- 『R&D デイナーサーベイ』より -

株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント(所在地:東京都新宿区、代表取締役:五十嵐 幹)では、弊社の調査システム「ディナーサーベイ」を使用した夕食メニューに関する調査を、毎日実施しています。

今年は暖冬というニュースが流れていましたが、実際に家庭で鍋料理が出される機会が減ったかどうか、「ディナーサーベイ」の過去 3 年間のデータで調べてみました。

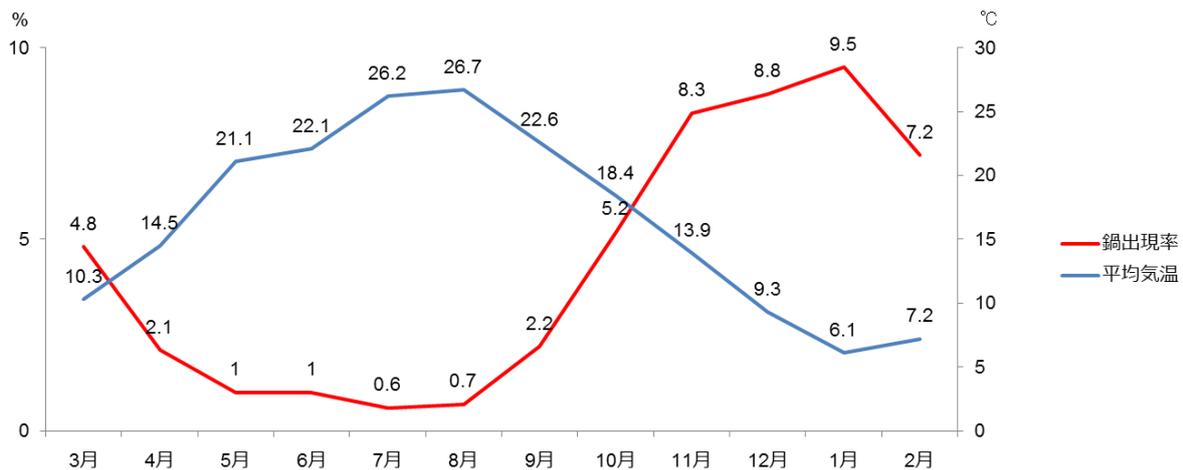
### “寒くなり始めたらやっぱり鍋” 気温と鍋出現率の相関関係

- 家庭の夕食で鍋が出される割合と毎月の平均気温の関係をみると、気温の下がり始める 9 月から鍋料理が増え始め真冬にどちらもピークを迎えるきれいな負の相関関係(相関係数 -0.87)であることがわかります。(図 1)

(図 1)

#### <直近 1 年間の内食での鍋出現率>

2015/3 ~ 2016/2



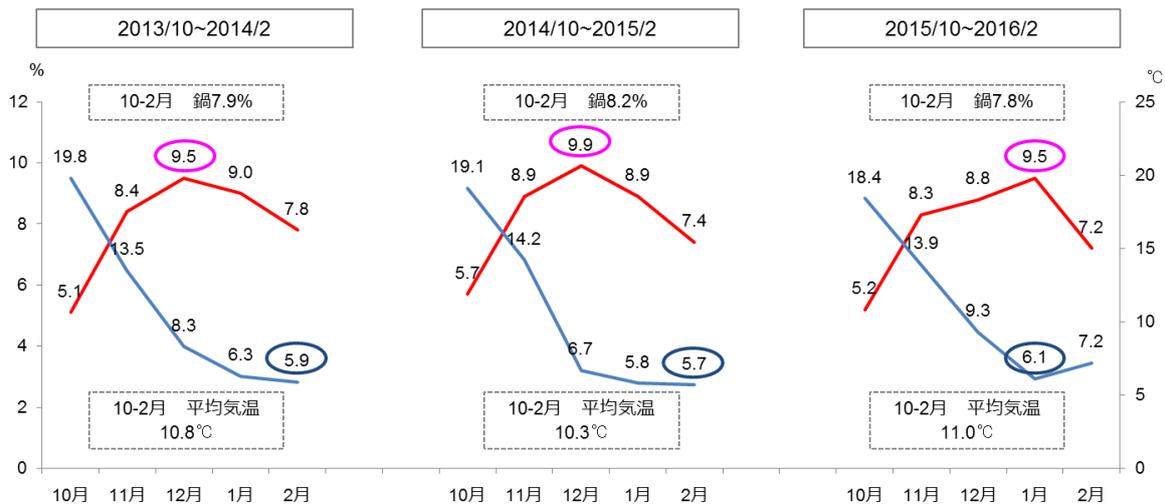
※データの出典 デイナーサーベイ

“鍋のピーク月は変わっても、冬場の鍋出現の総量は変わらない”

- 過去3年間の家庭での鍋料理出現率ピークは、昨冬とその前の冬は12月ですが、今冬は1月でした。  
今冬は12月の気温が前年に比べ2.6℃高く、鍋料理出現率は前年から1.1ポイント下がっています。しかし、1月に9.5%と盛り返しており、10月～2月まででみると家庭での鍋の出現率は昨冬より下がるものの、その前の冬と同水準を保っています。(図2)
- 単純に気温が低ければ低いほど鍋料理が増えるのか、というと単純にそうとは言えず、今冬の平均気温は1月が最低で鍋のピークも1月でしたが、昨冬、その前の冬をみると、平均気温は2月が最低でしたが鍋のピークは12月でした。(図2)
- 日単位で気温と鍋料理の相関係数をみると-0.2程度と低い水準となっており、過去の調査結果から鍋料理は「土日祝日」に増えることがわかっています。

(図2)

＜過去3年間 冬場の鍋出現率比較＞



※データの出典 デイナーサーベイ

## R&amp;D 発 生活者インサイト

## ◇「そろそろ鍋」という習慣的思考は、キャリーオーバーされ、鍋総量として取り戻される

例えば、冬に鍋を食べる総量はある程度決まっていて、気温が高く鍋気分じゃない日があったとしても、その後、曜日・気温などの条件が整えば食べられなかった分まで取り戻すような冬の鍋総量というようなものがあるようにも思えます。

それを裏付けるもう一つのデータとして、今年の2月の異常気象で暖かった週末とその次の週末の鍋出現率の差を見ると、「鍋リバウンド」と呼べる現象を発見しました。

主婦は家族の集まる週末は「手間のかからない鍋」にしたいというマインドがあり、冬なのに気温が高いことによって抑え付けられた「手を抜きたい欲求」が翌週に爆発した結果とも考えられるかもしれません。

皆様のご家庭では、いかがでしたか？

鍋リバウンドのデータを含む、分析結果の全体は、研究レポート『日本の冬の食卓シーンには「鍋気分総量」あり』をご覧ください。(弊社ホームページより無料でダウンロードいただけます)

## ■『ディナーサーベイ』夕食メニュー調査■



- 調査エリア： 全国
- 調査手法： Web アンケート
- 調査対象： 18～69 歳女性
- サンプル設計： 1日 1,000 サンプル、内食者月平均 26,422 サンプル
- 調査時期： 2009 年 4 月～継続中
- データ費用： 全国版\*1 ヶ月集計 28.3 万円(税別)～  
※ご要望に合わせて集計いたします。お気軽にお問い合わせください。

## 全国から毎日1,000サンプル、年間36万サンプル回収

その日の夕食、その日に調査

## 夕食メニュー調査

- ・全国で、毎日**1000**サンプル、**365**日調査
- ・夕食の摂取場所/その日の夕食メニュー/メニュー選定理由などを聴取
- ・夕食トレンドデータを**カスタマイズ集計**や四半期ごとの**定型グラフレポート**としてお届けします


 マスターサンプルから  
ランダムサンプリング  
毎日20時配信

 マスターサンプル  
18～69歳女性  
約**2**万人

 \*12分の1を毎月入れ替え  
マーケティングアプリケーションズ社  
モニター**20**万人

 その日に  
スクリーニング

- 特定メニュー調理者
- 特定製品利用者

## 特定メニュー調査

- ・**アドホック調査**サービス
- ・調査内容、質問項目は自由設定
- ・特定のメニューを作った人、特定の製品を使った人から、当日回答ならではの新鮮で詳細な回答が得られます

 メニュー、商品ごとに  
深掘り調査

 その日に  
アンケートへ誘導

**■会社概要■**

会社名： 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント  
所在地： 〒163-1424 東京都新宿区西新宿 3-20-2  
代表者： 代表取締役社長 五十嵐 幹  
資本金： 30,000千円  
設立： 1968年1月17日  
URL： <http://www.rad.co.jp>  
事業内容： マーケティング・リサーチの企画設計、実施及びコンサルテーション  
経営・マーケティング活動の評価及びコンサルテーション

《引用・転載時のクレジット表記のお願い》

本リリースの引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願い申し上げます。

〈例〉「(株)リサーチ・アンド・ディベロプメントが実施した調査によると・・・」

**■お問い合わせ先■**

- 本分析担当：  
株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント カスタマーサービス部（星野）
- 本資料に関するお問い合わせ：  
株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント セールスプランニング部（坂根）  
TEL：03-6859-2281 e-mail：radnews@rad.co.jp